入選

ぼくはおたすけまん

香川県　寒川小学校　一年
濵田　一輝

ぼくのおじいちゃんは、ぼくが小さいころに大きなびょうきをしました。なんかげつもにゅういんして、たいいんしたあとも、あしにちからがはいらなくなりました。

いっぱいリハビリをして、へやのなかをつかまりながら、あるくことはできるようになったけれど、ながいきょりをあるくことができません。だから、おでかけしたときや、びょういんにいったときは、いつもくるまいすをつかいます。

いっしょにでかけたときには、ぼくは「おたすけまん」になります。くるまいすにのるときには、よこのストッパーをとめてあげます。そうしないと、くるまいすがうごいてあぶないからです。

そして、あしおきをおろしてあげます。これがおたすけまんのしごとです。ほんとうは、うしろからくるまいすをおしてあげたいけれど、ぼくのちからではまっすぐおしてあげることができません。だんさをこえてあげることもできないので、よこについてあるいてあげます。

それから、トイレにいくときもふつうのトイレはせまいので、くるまいすのマークのついたひろいトイレにいきます。ここでも、おたすけまんのとうじょうです。

ぼくは、ボタンをおしてドアをあけてあげます。そんなぼくに、おじいちゃんはいつも、「ありがとう。」と、あたまをなでてくれます。

その日、おじいちゃんが月にいちど、びょういんへいく日でした。ぼくもなつやすみだったので、いっしょにびょういんにいきました。そのびょういんは、大きなびょういんなので、先生のところにいくまでに、エレベーターにのります。

とびらがあいてのろうとしたときです。中にのっていたおじさんが、ひらくのボタンをおしてくれて、おじいちゃんがのるのをまっていてくれました。

「どうぞ。」と、こえをかけてくれたので、おじいちゃんは、

「ありがとうございます。」とおれいをいいました。ぼくもペコリとあたまをさげました。そしておりるときも、「おさきにどうぞ。」といって、ひらくのボタンをずっとおしていてくれました。

ぼくはそのおじさんをみて、「おたすけまんがここにもいる。しらない人なのに、ありがとう」というきもちでうれしくなりました。

それから、しんさつがおわってかえるまでに、せきをゆずってくれる人や、せまいろうかでよけてとおらせてくれる人など、なんにんものおたすけまんにあうことができました。ぼくも、かぞくやしっている人のおたすけまんになるだけじゃなくて、しらない人のまえでもおたすけまんになりたいな、とおもいました。

いっぱいおたすけまんがふえて、ちいさなしんせつがいろんなところでふえていたらいいな、とおもいます。ありがとうのことばが、いろんなところできけたらうれしいです。